

(別記様式)

令和7年度 府立桃山高等学校(定時制) 学校経営計画(スクールのマネジメントプラン)( 計画段階 ・ **実施段階** )

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 「働きながら学ぶ」という定時制教育本来の意義・目的を正しく認識させ、自主的・計画的に学ぶ生徒を育成する。</p> <p>2 基本的な生活習慣の確立を図り、学業と仕事を両立できる生徒を育成する。</p> <p>3 基礎的・基本的な学習内容の定着とコミュニケーション力の向上を図る。</p> <p>4 指導内容、指導方法の工夫に努め、学習意欲を喚起し、教育効果を高める。</p>	<p>成果</p> <p>(1) 各学年や各分掌が相互に連携を取り、安心・安全な学校作りに努めた。また、生徒会活動を大切に、多くの校内行事を工夫して成功に導くとともに、クラブ活動の積極的参加を促すなど、多様な生徒に対して各方面で成果を上げた。</p> <p>(2) 進路実現に向けて、「キャリア教育講演会」など、早い段階から進路指導の充実に努めた。また、各関連企業・機関と連携して指導を丁寧に行い、多くの生徒の進路の実現を目指して粘り強く指導した。</p> <p>(3) 校内外の研修を通じて ICT の利活用について、教職員のスキルアップを図ることができた。</p> <p>課題</p> <p>(1) 授業改善の推進と基礎学力の定着及び基本的な生活習慣の確立を図り、希望進路の実現に向けたキャリア教育の一層の充実が重要である。また、クラス担任や教科担当者、関係分掌等が生徒の情報を共有し、個々の生徒の状況に応じた指導方法や指導内容等の工夫をさらに図る必要がある。</p> <p>(2) 安心・安全な学びの場を確保するため、問題行動等の未然防止を図るとともに、生徒の自尊感情や自己有用感を高めるための取組を一層充実させる必要がある。</p>	<p>1 卒業を目指し、高等学校で学ぶこと、並びに「働きながら学ぶ」ことの意義を理解させるとともに、学校生活に目標・目的を持たせることにより、学校生活への定着を図る。</p> <p>2 生徒が共に学び、助け合い、励まし合う集団の育成を目指して、生徒会活動を大切に取組を進めるとともに、様々な学校行事の充実に努める。</p> <p>3 希望進路の実現に向けて、3年間・4年間を見通して、早期より、計画的にキャリア教育を推進する。</p> <p>4 発達支持的生徒指導の視点を持ち、課題予防的生徒指導に取り組むとともに基礎学力の定着と生活習慣の改善を図り、社会性や規範意識の涵養に努める。</p> <p>5 特別な支援を要する生徒については、外部機関と連携しながら、特別支援会議を中心として支援の内容を明確化、全体化して、適切な指導に努める。</p> <p>6 学年部と各分掌や、教科担当とクラス担任の情報交換の体制を作るとともに、家庭や関係機関と丁寧に連携を図り、組織的に課題解決のための取組を進める。</p> <p>7 継続して授業改善に取り組むとともに、個別最適な学びと探求的な学びを推進する。</p>

※ 評価について A…十分達成できた B…おおむね達成できた C…あまり達成できなかった D…ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
生徒指導	・平和で安全で楽しい学校作りに向けた取組の推進	各学年・各分掌との密接且つ組織的な連携による平和で安全な学校作りに向け、オリエンテーション等を活用しながら発達支持的生徒指導に努め、日頃からの密なコミュニケーションを通じて課題予防的生徒指導を実践し、それでも問題行動が生じた場合には迅速且つ適切に対処する。	B	①会議資料について毎回分掌間調整をすることで意見交流を促進した。 ②部会内で適宜話し合いを行い、意識の統一を図った。 ③立ち番の際に生徒に声かけするなど日頃からの密なコミュニケーションを実施した。
		生徒が学校に定着できるよう学校生活を楽しいと感じられるものにすべく、生徒会と連携して文化祭を始めとする各行事に積極的に取り組ませて学校生活を充実させ、また部活動を通じて人間関係の幅を広げつつ活動に対する明確な目標を持たせそれに向けて努力する事での自己肯定感を培う手助けをする。	B	
学習指導	・生徒の実態に即した教育課程の編成と実施 ・個に応じた適切な学習指導の実践	多様な観点による学習評価の工夫や改善を図るとともに、教育課程についてさらに研究を深める。	B	教育課程については実施後の検討課題を引き続き集約し、次年度に検討する。
		生徒の学力を的確に把握し、基礎・基本を踏まえた粘り強い指導を実践する。 生徒の実態に応じてICTを利活用することで、学習内容の定着とコミュニケーション能力の向上を図る。	B	基礎的・基本的な知識が定着できるよう、補習等も活用して教科担当を中心に粘り強く指導を進めた。 今年度から全生徒が各自でICT機器を授業で利用することになった。各教科でなお一層ICT利活用に向けて研究が深められている。
進路指導	生徒の希望進路実現に向けた取組の推進	生徒の進路意識を高めるため、キャリア教育を充実し、推進する。	B	キャリア教育の一環として、各学年進路講演会を実施し、職業観の育成や社会人に求められる自立や自己管理の大切さを学ぶことができた。また、卒業年次生対象の進路説明会では進路意識の啓発と進路決定までのプロセス、心構えを育成することができた。 月1回、進路指導部ニュースを発行し、進路情報の提供に努めた。 また、生徒とのコミュニケーションを丁寧に行い、生徒理解に努め、履歴書作成や出願書類の作成、模擬面接練習等、希望進路実現のための取り組みを行うことができた。
		生徒一人一人の希望進路を把握し、その実現に向けて、各学年や各分掌、外部機関と密に連携を図る。	B	

健康教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>心身ともに健康な基本的な生活習慣の確立に向けた取り組みの推進</li> </ul>	<p>発達支持的な指導の観点を重視し、生徒が心身ともに健康に発達する活動を支援する。特に特別に支援を要する生徒に対し、各学年・各分掌と密に連携を取りながら指導する。</p>	A	A	<p>特別支援教育では新たな試みをして一定の前進を見た。課題としては本校での特別支援教育の方法論をさらにブラッシュアップし一定の形にすることが上げられる。</p>
		<p>外部の専門家を招いての学習会を複数回開催し、生徒が自身の心身の健康を良好に保つスキルを身につけさせる指導を行う。</p>	A	A	<p>3回の学習会を開催し、生徒の反応もよかった。課題としてはそこで生徒が学習したことを如何にして自身の生活で実践させるか、が上げられる。</p>
図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館の利用を活性化させ、読書を通じて教養を広げ、心豊かな生徒の育成を図る。</li> </ul>	<p>宣伝・広報活動を行い図書館活用の促進をする。各教科や学年団、各部との連携を取り、図書館や視聴覚機材の活用を図る。</p>	A	A	<p>今年度は特にメンタルに課題を抱える生徒たちの居場所となる第二保健室的な場となっていた面もある。また教科や行事での図書館・視聴覚機器も十分に活用された。</p>
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間の授業を大切に育てる。</li> <li>多様性を認め合い、他人を思いやれるようにする。</li> <li>生徒一人一人が自主自立できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員間で生徒の情報を共有し、きめ細かな指導をする。</li> <li>自己肯定感を高めるとともに、他人との関係も大切に考えさせる。</li> <li>学校のルールについて繰り返し説明し、遵守させる。</li> </ul>	B	B	<p>学年内や関係分掌、教科担当者、保護者等と情報共有を密に行うことで、生徒の抱える問題へ迅速に対応することができた。</p> <p>HRで人権学習を行い、他人との関係について考える機会を設けることができた。</p> <p>多様な生徒の指導体制の構築が課題である。</p>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時の授業を大切に、進級を目指す</li> <li>学校生活での役割やアルバイトなどの経験を積むことで自己理解を深め、成長する</li> <li>一人一人が集団の形成者であることを自覚し、充実した学校生活を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスを越えて情報共有を行い、学年部として生徒対応にあたる</li> <li>関係分掌や保護者との情報共有および連携に努める</li> <li>アルバイトを奨励するとともに、学校行事などの機会にはなるべく多くの生徒に役割をもたせるようにする</li> </ul>	B	B	<p>欠課時数の多い生徒が一定数いるものの、総じて真面目に授業に取り組む雰囲気があり、進級に向けて前向きに頑張ろうとする姿が見られた。</p> <p>学年内や関係分掌、教科担当および保護者と情報共有を密にして学校全体で生徒のサポートを行ったことで、学校や学年への生徒の帰属意識を高めることができた。</p> <p>安心な居場所としての学校生活に定着している一方で、自ら率先して物事に取り組むことや卒業後の進路について具体的に考え行動することには消極的な生徒が多いことが課題である。</p>

第3学年	<p>学年集団として安全で安心して学べる学校生活を目指す。今年度は修学旅行という大きな特別活動がありそれに伴う楽しい部分も強調できる。3卒者もいる中、進路実現へ具体的に考えていけるようにする。</p>	<p>クラスを超えて生徒の情報を共有し、学年全体を担任するという意識で指導に当たる。再学、退学者が多く出た学年であった。より細かく教科担任と情報の交換を早い時期から行うようにする。</p>	B	B	<p>残念ながら今年も欠課時数オーバーの生徒が1名出てしまった。再学の方角を促しているが難しい。3卒生は卒業し進路に向かって進めている。4卒生も進路に向けて意識が高くなっていると考えられる。3人の担任団はしっかり連携し指導できたと考える。</p>
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活を通して自他共に認めあう関係を深める。(自己肯定感を持たせる。人格の違いを認めあう)</li> <li>卒業後の進路を定め、その実現に向けて取り組む。</li> <li>最上級生であることを意識させ、その姿を後輩たちに見せることでバトンをつなげられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスを超えて生徒の情報を共有し、学年全体を担任するという意識で指導にあたる。</li> <li>関係各部との連携、迅速な対応。生徒をよく観察しながら保護者等への説明、子どもに対する理解と協力を得る。</li> <li>卒業後の進路を見据え、その実現に向けて取り組むことで、生徒一人ひとりが自立できるような伴走する。</li> </ul>	B	B	<p>学校行事や進路実現に向けての協働作業を通して、自他共に認めあう関係を深めることができた。</p> <p>関係各部と連携することで、生徒をよく観察しながら包括的な指導を行うことができた。</p> <p>進路部と連携して、生徒一人ひとりの希望や資質・能力に沿った進路実現を果たすことが出来た。</p>
事務・施設	<p>効果的な予算執行を実現するため、各分掌、教科等の要望を聞き取るとともに、生徒、教職員に寄り添った学校運営、教育活動の推進に寄与する。</p>	<p>長寿命化改修工事を含め、校内の危険箇所、不具合箇所について、迅速に対応するとともに、生徒・教職員の安心・安全に向けた施設・設備の整備、充実を図る。</p> <p>ICT機器を中心とした教育環境整備に努め、生徒に効果的でより良い学びが保障できる教育環境を提供する。</p>	B	B	<p>2号館の長寿命化改修工事の円滑な実施及び施工後の引っ越し作業や不具合箇所の修繕について予算の範囲内で迅速に対応することができた。生徒の教育活動にも最大限配慮した調整や教育環境整備が実現できた。</p> <p>図書館のアクセスポイントの設置を含め、校内のWi-Fi環境整備に努めた。次年度以降も更なるICTの充実に向けて生徒、教職員の要望を丁寧に聞き取り、予算確保を図る。</p>